

## ●漁況情報

- 7月13日、横須賀市東部漁業協同組合 走水大津支所所属のりゆき丸さんでは、潜り漁によるサザエの盛漁が続いていました（100 kg/日）。漁獲されたサザエの一部は、釣り船の遊漁者にも販売されており、多くの遊漁者が購入していました。



潜り漁で漁獲されたサザエ

## ●浜の話題

- 6月28日以降、小坪漁協所属座間指導漁業士をはじめとした合同会社「こつぼ」のメンバーは、昨年に引き続き海ブドウの養殖を始めました。今年は海ブドウに適した広くて浅い陸上水槽を手作りで整備して、前年比2倍の生産量を見込んでおります。8月5日に初摘み出荷し、地元量販店「スズキヤ」で販売され、売行きも良いそうです。



海ブドウ生産風景

地元量販店「スズキヤ」での海ブドウ販売の様子

- 7月4, 11日、小坪漁協所属漁業者や地元加工業者、料理店等で構成される合同会社「こつぼ」は、6月中旬から当センター利用加工部指導の下育成したキャベツウニの販売会を開催しました。今年は3千個育成して、地元商工会に加入している量販店「スズキヤ」に合計400個、飲食店に300個のキャベツウニを出荷し、前年と比べて全体的に身入りが良かったそうです。当日の様子は23日にテレビ朝日「食彩の王国」でも放映されました。

「食彩の王国」掲載ページ <https://www.tv-asahi.co.jp/syokusai/backnumber/0886/>



キャベツウニの身の摘出作業の様子



前年と比べ身入りが良かったキャベツウニ





- 7月5日、水産技術センター栽培推進部は、同部で生産したトラフグ種苗約4千尾(67.6mm)を小田和湾齊田浜の松越川河口で放流しました。活魚車から直接ホースを使って放流し、ホースから飛び出すと元気に海に向かって泳ぎ出していました。当日立合ったトラフグ延縄漁を営む長井町漁協福会所属漁業者10名余りも、2年後の漁獲対象資源への加入に期待を寄せていました。



トラフグ種苗放流と放流後の担当研究員からの説明の様子

- 7月5,12日、長井町漁協潜水部会所属漁業者は、磯焼け対策の一環で、素潜りでのウニ駆除を実施しました。普及員も2日間同行しましたが、漆山地先はガンガゼが多く1人300個前後駆除できました。長井ではウニ駆除を10年近く継続しており、アラメ・カジメが少しずつ見られる地区も増えてきて、刺網の網掃除でも干切れたカジメ等の引っ掛かりが多く見られるようになってきました。



潜水部会の若手からベテランまで一致団結して磯焼け対策に取り組んでいます 刺網に引っ掛かったカジメ

- 7月13日、藤沢市漁協は、チョウセンハマグリ(ハマグリ)の稚貝調査を行いました。1cm程度の昨年に生まれた稚貝が採捕され、自然の再生産が確認されました。



稚貝調査の様子(7月13日)



ハマグリ(ハマグリ)の稚貝

- 7月15日、大磯二宮漁協、平塚市漁協及び茅ヶ崎市漁協は、(公財)神奈川県栽培漁業協会及び(公財)相模湾水産振興事業団から支援を受け、マダイ種苗15,000~23,000尾を放流しました。



種苗放流の様子(平塚)



泳いでゆくマダイの種苗

○ 7月18日、(一社)全国漁業就業者確保育成センター主催の漁業就業支援フェア2022が浜松町の東京都立産業貿易センターで開催されました。全国の漁業関係者がブースを設け、来場者に地元漁業への就業案内をしていました。本県からは、県漁連・県水産課、県漁業士会(小田原)、有限会社湘南定置(大磯二宮漁協)、運海丸(福浦漁協)の4団体が出展しました。漁業士会からは小田原地区の青年漁業士が出席し、来場者に小田原の漁業について説明を行いました。全体で116名の来場者があり、本県ブースで熱心に質問する来場者も見られ、就業につながることを期待されます。

「小田原で、漁師になりませんか Youtube」 <https://www.youtube.com/watch?v=Swqgg97vx7c>



就業希望者に説明する様子



小田原市の漁業紹介パンフレット

○ 7月下旬、(公財)相模湾水産振興事業団と(公財)神奈川県栽培漁業協会は、腰越漁協所属漁業者の協力の下、21日にマダイ種苗28千尾(協会)、8千尾(事業団)、22日にマコガレイ種苗5千尾(事業団)を地先の適地に放流しました。



マコガレイ種苗放流の様子

○ 7月20日、長井定置に標識の付いたゴマサバ(尾叉長33cm)が入網しました。担当研究員によれば、このサバは今年5月26日に洲崎沖 沖の山で、調査船江の島丸で漁獲したものを標識放流したものだそうです。KN番号の書かれた黄色い円柱状のタグの付いたサバを見かけた方は、栽培推進部046-882-2314にお知らせ下さい。



背鰭付近にKNと書かれた黄色い筒状のタグが付いています

○ 7月20日、福浦漁協、真鶴町漁協、岩漁協及び小田原市漁協は、(公財)神奈川県栽培漁業協会及び(公財)相模湾水産振興事業団から支援を受け、マダイ種苗10,000~26,000尾を放流しました。

○ 7月21日、三和漁協上宮田支所は5月18日にみうら漁協南下浦支所金田湾販売所の協力を得て金田湾で採集したアマモの花枝を約2ヶ月間海中で保管した後、アマモの種子の選別作業を行いました。採集した花枝からアマモの枯れ草や付着生物を取り除き、残ったごみの中から米粒大のアマモの種をピンセットで拾いあげます。なかなか根気のいる作業で、特に大量に発生した4~5mmの外来種のウスカラシオツガイの足糸がアマモの種子に絡みついているのを切り離すのには手間がかかりました。



選別した種は 11 月頃まで冷蔵庫で保管し、かつてアマモ場があった上宮田支所の地先に播種する予定です。



ゴミの除去作業



アマモ種子の選別作業

- 7月21日、江の島片瀬漁協は、（公財）神奈川県栽培漁業協会及び（公財）相模湾水産振興事業団からの補助と組合購入により、マダイ種苗 29,000 尾を放流しました。
- 7月22日、（公財）県栽培漁業協会と（公財）東京湾南部振興事業団は、マダイの稚魚（全長7cm 55千尾）を久里浜地先に放流しました。当日は、同協会において生産した稚魚を城ヶ島から久里浜港に活魚車で搬送した後、横須賀市東部漁業協同組合 久里浜支所所属の漁船2隻に分槽し、漁業者の協力により船上から、放流が行われました。



マダイ稚魚の放流の様子

- 7月22日、しらす漁業者で構成する神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会（しらす協議会）は、「湘南しらす」の新しい公式サイト（<https://shonan-shirasu.org/>）を立ち上げました。湘南しらす直売所とともに公式サイトのご利用もお待ちしております。また、しらす漁業者の皆様におかれましては、公式サイト充実のため積極的な情報のご提供をお願いいたします。



「湘南しらす」の新しい公式サイト



公式サイトへのアクセスはこちら

- 7月26日、真鶴町漁協及び岩漁協は、（公財）相模湾水産振興事業団からの補助分と組合購入分の

合計 23,150 尾（真鶴 12,400 尾、岩 10,750 尾）のヒラメ種苗を地先漁場へそれぞれ放流しました。また、同日に福浦漁協は 1,500 尾、茅ヶ崎市漁協は 3,000 尾のヒラメ種苗を地先漁場へそれぞれ放流しました。



ヒラメ種苗放流の様子（真鶴）



船上のヒラメ種苗（福浦）

- 7月27日、平塚市漁協は、江の島片瀬漁協の漁業者からチョウセンハマグリのみんかん漁法について講習を受けました。平塚での今後の展開が期待されます。



まんかん漁の講習の様子

- 7月28日、小田原市漁協はヒラメ種苗の放流を行いました。小田原市漁協、同刺網部会、（公財）神奈川県栽培漁業協会及び（公財）相模湾水産振興事業団の4者合同で、合計 50,000 尾のヒラメ種苗（平均全長 89mm）を地先漁場に放流しました。放流後は元気に海の中へと潜っていく様子が見られました。来年の冬以降の漁獲につながることを期待されます。



ヒラメ種苗の積み込み



ヒラメ種苗放流の様子

- 7月30日、（公財）県栽培漁業協会、横浜港埠頭（株）及び横浜市漁業協同組合では、ヒラメの稚魚（全長7cm 45,400尾）とマコガレイの稚魚（全長5cm 15,000尾）を横浜ベイサイドマリーナ（金沢区白帆）地先に放流しました。漁業者の協力により、ヒラメは輸送されてきたカゴから直接放流し、マコガレイは活魚車からホースを用いて、サイホン方式によって放流しました。





ヒラメ（左）とマコガレイ（右）の放流の様子

- 8月2日、令和4年度関東・東海ブロック漁業士研修会(Web会議)が開催され、本県から漁業士会会長（蒲利丸）と副会長（清一丸）に参加いただきました。当該会議はコロナ感染症の影響で令和2、3年は開催されませんでした。今年は初の試みでWEBによる開催となりました。会議では各県の漁業士会から活動報告・意見交換があった後に、「漁業就業者確保で漁業士にできることは」、「令和5年度のディスカッションテーマ（ブロック案）について」を協議しました。また、開催県の愛知県の水産試験場から「伊勢湾における漁獲物組成の変化について」の発表があり、貧酸素水の発生などについて質疑応答が行われました。



Web会議の様子（水産技術センター内）

- 8月2日、大磯二宮漁協は、（公財）相模湾水産振興事業団と合同で合計11,150尾、平塚市漁協は、同漁協の定置網資源管理、平塚市漁業振興対策協議会、（公財）神奈川県栽培漁業協会及び（公財）相模湾水産振興事業団の5者合同で合計21,300尾のヒラメ種苗を地先漁場へそれぞれ放流しました。



ヒラメ種苗放流の様子（大磯）



ヒラメ種苗放流の様子（平塚）

- 8月5日、JF神奈川県漁連は県の委託事業で「かながわ漁業就業促進センター」を開校しました。今年は漁業就業を志望する4名の研修生が集まり、漁業に関する座学研修や9～12月の漁業実習で、各浜の皆様のお世話になります。昨年の漁業実習受入れ先に3名の就業実績がありますので、新規就業者を募集されている漁業者の方で、研修生の受け入れが可能な方は県漁連及び水産課、あるいは最寄りの普及員までご連絡ください。



開校式の様子

## ●お知らせ

三浦半島地区の沖合一本釣り漁業者の要望を受け、8月以降、企画指導部海況担当で提供する人工衛星画像の水温スケールの変更を試行しております。これまでの水温スケールは18～31℃になっておりましたが、海水温が上昇する夏秋期にかけて、22～30℃に変更して、高水温下でも細かい温度帯の色分けを鮮明にするための取組みです。一都三県黒潮情報と並びに人工衛星画像を活用されている漁業者の方、ご意見・ご要望等あれば、企画指導部 海況担当まで046-882-2312までご連絡下さい。